（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1950880045		
法人名	医療法人　千歳会		
事業所名	グループホーム甲西		
所在地	山梨県南アルプス市田島１１０５番地		
自己評価作成日	平成21年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新１－２－１２
訪問調査日	平成22年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

老健施設の併設で、医師や看護師に速やかに相談できる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

敷地内には、同一法人が運営する介護老人保健施設・通所リハビリテーション施設があり、必要時には、協力しあう関係が作られている。ホームの建物は、鉄筋コンクリート3階建ての老健施設の１階部分に内設されている状況であるため、暖かい雰囲気作りを心がけており、利用者と共にホーム内の飾りつけをしたり、玄関に鉢植えの花を育てるなど工夫している。スタッフと利用者の関係はもとより、利用者同士の関係も調和を大切に出来るように、配慮した支援を心がけている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内や廊下に、運営理念を掲示してあり、スタッフがいつでも確認できるようになっている。家族や近隣の人達と協力しながら、利用者が安心して生活できるよう支援している。	事業所理念を管理者・職員が共有し、実践につなげるべく、月１度開催する定例会では理念を意識して話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で近隣の方との触れ合い、時々収穫した野菜を頂く事がある。また、獅子舞・豆撒き・敬老会・アニマルセラピーなどの地域のボランティアを通じ、交流している。	地域の様々なボランティアが来訪し、交流の機会は多い。利用者が、以前に稽古していた大正琴の仲間が訪れ演奏をしてくれたり、獅子舞・豆まきなどの地域行事は、利用者にとって、これまでの暮らしとのつながりとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談には、いつでも対応できる。その際、認知症についての理解を求め、ホームでの取り組みを説明するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況を報告し、理解を求めたり、第三者の意見を聞く機会を、定期的に設けるためにも運営推進会議を活用している。	地域・行政・利用者・家族の代表に法人事務長・職員で構成されている。内容は活動報告・事故報告などだが、今後は、具体的に問題点を提起して、各々の立場での協力を得られるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の研修や施設部会に出席して、他施設の方や市町村の担当者とコミニュケーションや交流をとるようにしている。	市町村の主催で開かれる研修や施設部会などには、積極的に参加している。このような機会を通じて、現場の実情を知ってもらい、関係づくりとなるよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設のリスクがある為、現在、玄関の施錠をしている。家族には説明と理解を得ているが、今後は施錠せず安全に生活できるホームを目指し、見守りが十分できる時間帯は施錠しない方向で検討中である。	構造上、職員がいる場所から玄関は盲点となっており、現在、帰宅願望が強い利用者が２人いることもあり、安全のため施錠している。職員は身体拘束について正しく理解しており、スピーチロックは特に注意し、日々の支援に反映している。	職員全体が対処的なケアにとどまらず‘なぜ出ようとするのか’を考え、その背景を察知して、施錠しないための工夫・方法を作り出すことを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が資料を持ち帰り、いつでも見れる状態にしておき、個々に勉強をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会があれば、参加を促している。また、研修の資料を活用し、個々に学ぶ機会を設けるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ホームのケアに関する考え方やホームでの対応可能な範囲を説明し、家族の協力もお願いしている。また、利用料金などは十分な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、思いを察する努力を行い、その都度、本人の思いを確認したり対応可能な事は実施している。また、月1回の職員のミーティングで話し合っている。	家族の希望や要望を、その都度、家族がケアプランに書き込んでいる。面会時には、利用者の近況を伝えながら、家族からの意見が出せる雰囲気づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングででた意見は、早急に対応に取り組み、随時上司に報告している。	月1回、ミーティング会議を開いている。その他にも職員間の連絡ノートがあり、業務・運営・日常のケアなどについて、気づいたことを書いている。また、職員は随時、意見・要望を管理者に申し出て、それについては話し合いながら調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業者業務分担表により、管理者・計画作成者・介護者の分担を明確にしている。また、分掌表に分掌事項を明記している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や併設施設での勉強会には，出来るだけ参加を促し、学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南アルプスと峡南地域のグループホームで定期的に交流会や勉強会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査で本人に会い、本人の想いを聞くようにしている。また、今後どのような事を望んでいるのか考察している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査で、家族の困っている事や家族のこれからの希望などを聞くようにし、ホームでできる対応を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の困り事等に必要なサービスは何か考え、必要に応じたサービスの提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、人生の先輩として接する工夫、声かけに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を家族に伝える事で、安心もされますが、困り事については、本人にとって何が一番いいのか、家族と一緒に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊のお願いをしたりして、家族との交流の維持に努めている。(面会だけでは味わえない部分もあるので)また、ホームでの行事には参加を呼びかけ、一緒に過ごせるように援助している。	農村地域であり、利用者のほとんどが高齢であるため、馴染みの人・馴染みの商店などは無いのが現実である。家族関係の維持に努め、可能な限り、近所の人や友人の来訪などの機会づくりを心がけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感情の起伏の激しい人がいるので、職員が調整や仲介に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の老健施設に移った方を訪ねる事があった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、表情・態度・言動の観察を行い、記録して把握に努めている。	些細なことでも介護日誌に記録し、本人の希望・意向を把握する材料としている。時には昔ばなしを聞かせてもらうこともある。その中からこれまでの暮らしの背景を知ることが出来、意向の把握につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、昔の話を聞いたりして本人の情報を集めるようにしている。また、家族からの情報収集も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで過ごせるように配慮している。（習字の練習を毎日欠かさず行うなど）また、状態観察やバイタルチエックにて体調管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者を決め、センター方式にてアセスメントを3か月ごとに実施し、それに基づき計画作成者がケアプランを作成している。新プランに対しては、カンファレンスを行い、検討・修正を行い、職員間で確認、実行している。	3か月ごとに、介護計画の見直しをしている。家族の意向を記入してもらい、本人の言葉も記入している。書道を生きがいに、と言う利用者には書に向かえる時間を調整し、必要な支援を個別に盛り込むような努力をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや本人の言葉、エピソード等、個別に記録している。職員は情報を共有し毎日のケアにつなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の気づきや本人の言葉、エピソード等、個別に記録している。職員は情報を共有し毎日のケアにつなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、近隣の方々と接する機会が持てるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医は定期的に訪問し、診察してくれている。それ以外の受診は、家族の同行受診となるが、家族がどうしても同行不可の時は、職員が同行する事もある。	本人・家族の希望する医療機関の受診がなされている。受診の際は家族対応が原則ではあるが、出来ない場合は受診支援もしている。歯科の受診も同様である。また、受診後は相互に情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老健施設の看護師に相談可能である。昼夜問わず、急変時も相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の情報を医療機関に提供し定期的に見舞うようにしている。また、家族との情報交換も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針は入居時に説明してあるが、体調が悪化した場合や急変時は、その都度、本人を含め家族の意向を確認している。	「本人の状態が重度化した場合でも、本人及び家族の意向があれば出来うる限り対応するよう努力する」との方針は相互に合意しているが、状況が変化することもあり、それに応じた話し合いをその都度行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルに従い、実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	老健施設と共同の防災訓練に、年2回参加している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力をお願いしている。常に、非難経路や消火器の場所の確認を行っている。	同一敷地内の施設と合同の防災訓練を、年2回行っている。利用者・職員が防災頭巾をかぶり実際に避難した。消防署の協力もある。敷地内に他施設があることは、有事の際は協力・応援を得られ、夜勤職員の安心につながっている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に頭に入れながら接するように努めている。	日々、一人ひとりのペースを尊重して過ごせることを、最も大切に支援している。トイレ誘導の声かけはさりげなく、利用者間のいさかいに対しては、ある時はとりなし、ある時は過剰に反応せず、様子を見るなど、配慮・工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるように働きかけ、本人の想いや希望を受け止めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の大きな決まりごとはあるが、本人の意思で自分のペースで過ごされる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの準備は、本人と一緒に行っている。また、季節の変わり目や足りない物は、その都度、家族に連絡し持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶を入れてもらったり、テーブルを拭いてもらったり、下膳、食器洗い等一緒に行っている。朝・昼・夕と職員も一緒に食べている。	ホームでご飯を炊き、副食は敷地内施設の調理室から、一人分がトレーに乗って届けられる。職員も一緒に食べ、セッティング、後片付けは、利用者と共に行っている。月に1度ぐらい、おやつ作りや食事作りを楽しんでいる。	地域密着型サービスの意義を考えると、調理・食事は重要な位置にある。月に1度ほどのホーム内でのおやつ作り、食事作りの機会を増やし、利用者が力の発揮・参加を実感できる場をさらに増やす事を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチエックを毎日行い、バランスよく摂取されるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ｹｱを促し、その力に応じた手伝いを行っている。（義歯の洗浄や保管など）		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員が昼夜共にトイレ、Pトイレ使用にて排泄されている。声かけが必要な人には随時、声かけし誘導している。また、失禁の有無の確認にて、必要時交換し、清潔の保持に努めている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、利用者の様子を見て判断し、個別の支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、朝の散歩・廊下を歩くなどで、適度に身体を動かすよう声かけ、支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に聴き取りを実施した結果、火曜日・木曜日・土曜日の午後浴となっている。	以前、外部評価で改善の指摘を受けたこともあり、職員間で検討、改善に向け試行錯誤した。利用者の希望を重視して取り組んだ結果、火曜日・木曜日・土曜日の午後に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡などは、本人のペースでされている。夜、不眠気味の人には、昼寝はしないように声かけし、一緒にテレビをみたりして、日中の活性化が図れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーは本人のカルテに入れてあり、職員がいつでも確認できる。薬は事務室で管理し、食事ごとにケースから出している。また、内服は手渡しや口に入れるなどで確実な服薬を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの性格や得意な事を活かせるような事を、毎日の生活の場面やレクレーションなどで実施している。たとえば、ちぎり絵が好きな利用者には、その人が中心になって作業ができるように働きかけるなど。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、散歩と外庭での日なたぼっこに分かれて実施し、外気に触れる時間を作っている。	散歩が習慣となっている人、歩行動作に支障のある人は戸外で日向ぼっこをするなど、本人に合わせた支援が行われている。また、外食、花見など日頃の外出と普段行けない所への外出とを織り交ぜ、工夫をしながら外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者がまとめて管理し、毎月の収支を家族に郵送で報告している。2名は、小銭入れを所持しており、郵便や電話代、デイケア時の外食などの支払いを個々に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時は小遣いの中から、公衆電話でかけてもらっている。また、毎月、各担当者が家族に本人の近況など、手紙に書いて郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、いつでも使えるようになっており、くつろげるスペースになっている。また、玄関ホールの円柱には、季節の飾り付けを行い、季節感をだすようにしている。	玄関ホールのソファー・居間のこたつなど、利用者は思い思いに過ごしている。居間の障子は採光の調整に有効で、利用者の生活習慣にも馴染み深く、柔らかい雰囲気をだしている。玄関ホールにはお正月飾りがされ、季節を感ずることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や居間の共有空間は離れているので一人で過ごす事も可能である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・椅子・テーブル等、本人の使い慣れた物の持込や写真などの小物を壁に貼ったりしている。	居室は、ベッド・箪笥の他は、本人が持ち込んだ馴染みの家具が、好みに合わせ配置されている。書道に励む利用者もおり、使い慣れた書道道具や作品があった。建物全体の空調の他に、居室ごとに機器が設置され、湿度も配慮されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少し体重を減らしたい人には、廊下を毎日、自分のペースで歩いてもらっている。また、杖歩行の方が杖を忘れても、すぐに手すりが近くにあり、短い距離は見守りで過ごせている。		